

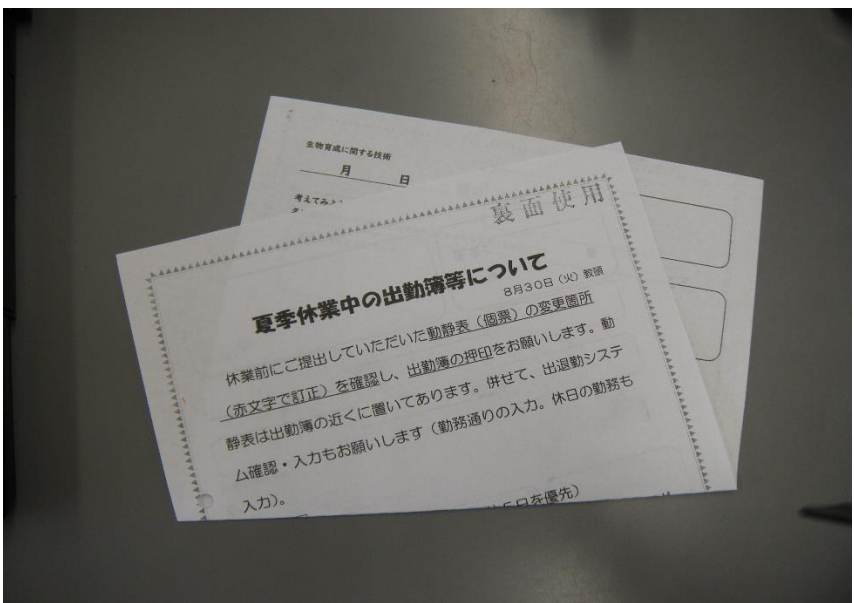
■今年度の活動内容設定時に参考とした「他校の環境に関する取組」 円蔵中の「合わせ印刷や裏紙でのテスト印刷等の呼びかけ」、室田小の「会議等の提案は電子化」等							
取組 テーマ	取組目標	具体的な活動内容		担当者	活動 主体	取り組んだこと、その実績	1年を振り返って
環境についての学習	地域環境や地球環境の保全について理解を深める。	1	気候変動、地球温暖化やSDGsについて学ぶ	1・3学年社会科担当教員	生徒 教職員	1 南米の熱帯林の伐採による「地球温暖化の加速」や、開発がもたらすメリット・デメリット、UNICEFの資料などからSDGsの現状を学び、日常生活でできることを考えた。 2 学校に自生する植物の分類を調べた。地域環境について、外来種が自生していることから、地域環境の保全について学習した。 様々な材質について、その特徴と環境との関係について学んだ。 3 自然災害の事例を学び、身近な取り組みを考えた。茅ヶ崎のごみの分別方法などを知り、プラスチックの問題点も含めいかに使用量を減らすべきか考察した。 4 火力発電の割合の高い理由と環境への影響、代わりとなる発電手段を考えた。 5 東海岸から柳島海岸までビーチクリーンを行い、振り返りを行った。	【取組の評価】 <input type="checkbox"/> 達成できた <input checked="" type="checkbox"/> ほぼ達成した <input type="checkbox"/> 達成できなかった 【理由】 それぞれ学習目的を意識して取り組んでいる活動内容のため、達成していると考えられる。 【今後の課題】 学習した内容を今後の生活の中で生かして行動できる実践力をつけていくこと。授業で教材として扱う職員は、環境について理解が進んでいるが、教科によらず全職員の理解の促進を図ること。 【次年度への引継ぎ事項】 取り組みの継続、全職員で取り組むような活動を考えること。
		2	・学校周辺の自然について調べる ・様々な材質とリサイクルについて学ぶ ・外来種の生態系への影響について学ぶ	1・3学年理科担当教員	生徒 教職員		
		3	・自然災害を知り、身を守る知識を得る ・環境汚染について学ぶ ・水の役割、生活排水・ごみ処理を学ぶ	2・3学年保健体育担当職員	生徒 教職員		
		4	・発電方法について学ぶ ・食品の廃棄やフードマイレージ、循環型社会推進のための消費者の行動を学び考える	技術・家庭科担当教員	生徒 教職員		
		5	総合的な学習の時間におけるビーチクリーン活動	1学年職員	生徒 教職員		
電気、水、物を大切に使う活動	電気、水、紙などの資源を大切にすることを学ぶ。	1	照明をこまめに消す	教職員 整備委員会職員	教職員 生徒	1 整備委員会で、移動教室時の教室の照明、扇風機、エアコンの消し忘れがないか、クラス全体で力を入れた。廊下の照明は、常に半分だけ使用した。 2 エアコンはこまめ設定温度を調整した。 3 試し刷りはすべて裏紙に行った。古紙を捨てる前に裏紙利用できるものを選別し、活用した。授業で用いる印刷物以外は紙媒体を減らすことができた。 4 水を出しっぱなしにすることはほとんどなくなった。	【取組の評価】 <input type="checkbox"/> 達成できた <input checked="" type="checkbox"/> ほぼ達成した <input type="checkbox"/> 達成できなかった 【理由】 生徒が消し忘れがないように、よく取り組んでいた。職員室のプリンターに裏紙を常設したことで、利用が促進された。 【今後の課題】 エアコンの使用、設定温度は教室による差が大きく、教室内の座席の位置によっては寒いという声もあった。扇風機との併用で、適切な温度になるように調整を心がける必要がある 【次年度への引継ぎ事項】 ジャージを着ないでよい温度設定とすることや、風向や設定温度に具体的な基準を設ける。職員は退勤時にPCの電源を必ず落とすように声をかける。
		2	・エアコンの適切な温度設定の徹底及び扇風機の電源OFFの徹底 ・衣服の調節で、エアコンの使用を控える	教職員 整備委員会職員	教職員 生徒		
		3	古紙や裏紙の再使用・テスト印刷、授業の提出物等のiPad活用を推進する	教職員	教職員		
		4	手洗い中の水を止めるよう呼びかける	教職員 整備委員会職員	教職員 生徒		
捨てるごみを減らす活動	リサイクルに努め廃棄物を削減する。	1	電子データの活用や裏紙使用による印刷物の削減	教職員	教職員	1 職員の会議資料もほぼ全て電子化した。保護者への配布物も一部電子配布のみとした。 2 職員室のごみ箱には注意のイラストを貼り、業務でのごみ以外はすべて持ち帰りとした。 3 牛乳給食が夏季休業前で終了したため、その後は様々な賞品のベルマーク回収の呼びかけを生徒が行った。	【取組の評価】 <input type="checkbox"/> 達成できた <input checked="" type="checkbox"/> ほぼ達成した <input type="checkbox"/> 達成できなかった 【理由】 ごみの持ち帰りの徹底がまだ図られていない。 【今後の課題】 改善を呼び掛ける。 【次年度への引継ぎ事項】 取り組みの継続、職員の取り組みへの意識向上対策を図る。
		2	ごみの持ち帰りや分別の徹底	教職員	教職員		
		3	牛乳パックを洗ってベルマーク運動に参加	学校給食担当職員	当該生徒		

(様式1) 学校エコ活動シート

●写真等の記録：活動や発表の風景等取組の記録を、必要に応じて添付してください。写真等の下に、キャプションをご記入ください。個人情報の取り扱いにご注意ください。



印刷室の印刷機・コピー機に表示。電源を切る習慣化の助けとなっている。



印刷室の印刷機・コピー機に表示。電源を切る習慣化の助けとなっている。

●学校長（推進責任者）によるコメント

【学校長名】

羽場 由佳子

【今後の方向性について】

これまで取り組んできたことは、当たり前のこととして継続していきたいと思えます。また、本校のように600名を超える生徒が、様々に環境のことを考え、行動することはとても大きな成果となります。工夫をしながらエコアクションに取り組んでいることを、積極的に発信することを通して、環境保全への啓発活動につながるよう考えていきます。